



著書「古時計浪漫」寄贈の件

拝啓

若葉のかおる季節となり、皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃、秋田高校同窓会には、何かと大変お世話になっておりますので、心から御礼を申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが日頃から骨董好きであったため、老後の趣味として「古時計」（主にクロック類）に興味があり、コレクションをしてまいりました。

古時計を蒐集して25年以上となると時計グッズや関係資料も膨大（？）となり、そろそろ蒐集をストップし、今まで調査してきたものを整理することにしました。

今年、**八十寿（傘寿）**を迎えたことを機会に今まで蒐集、調査、研究してきたものを何か一つでも世のため、人のために還元することが出来ないかと自問自答してみたところです。

筆者の調査・研究してきた事柄（結果）は、このままだと時間の経過と共に歴史の中で忘れ去られてしまう恐れがあり、書籍として記録し、広く一般にも知って貰い、後世に伝承することが義務であり、また社会貢献できると考えたのである。

なお、本書の自主出版（300部）の目的や信条は、「まえがき」並びに「編集後記」で詳細に記載してありますので参照して下さい。

特に本書は、**川越並びに岩槻の「時の鐘」の秘密**の調査をした際、あまりにも資料不足を痛感し、各1年間の期間をかけて調査した資料を一般に公開して、皆様に利用していただくことが最良の方法と考え、本書の発刊した動機である。

筆者は、古時計愛好家の「NAWCC108支部」（古典時計協会）の会員であり、さいたま市岩槻区の「岩槻地方史研究会」に所属しているため、機関誌である「岩槻史林」へ各種論文を投稿してきたものや講演内容を再度見直し、加筆、追加して纏めたものが、別紙の著書 **時計は語る 時計のトキメキ 「古時計浪漫」**である。

ようやく桜の花の咲くころに念願の「古時計浪漫」を完成できましたことが筆者の喜びであり、また刊行報告を申し上げ、筆者の母校である秋田高校同窓会へ勝手ながら本書を寄贈致したいと思えます。

素人の一古時計愛好家が趣味として纏めたものであり、未熟な点も散見されるところもあるかもしれませんが、ご容赦願ひ、ご一読していただければ本望です。

今後、さらなる秋田高校の発展を祈念すると共に、筆者「古時計浪漫」発刊の挨拶と致します。

敬具

平成30年4月吉日

コーセイ・加藤（加藤 晃正・昭和32年卒）